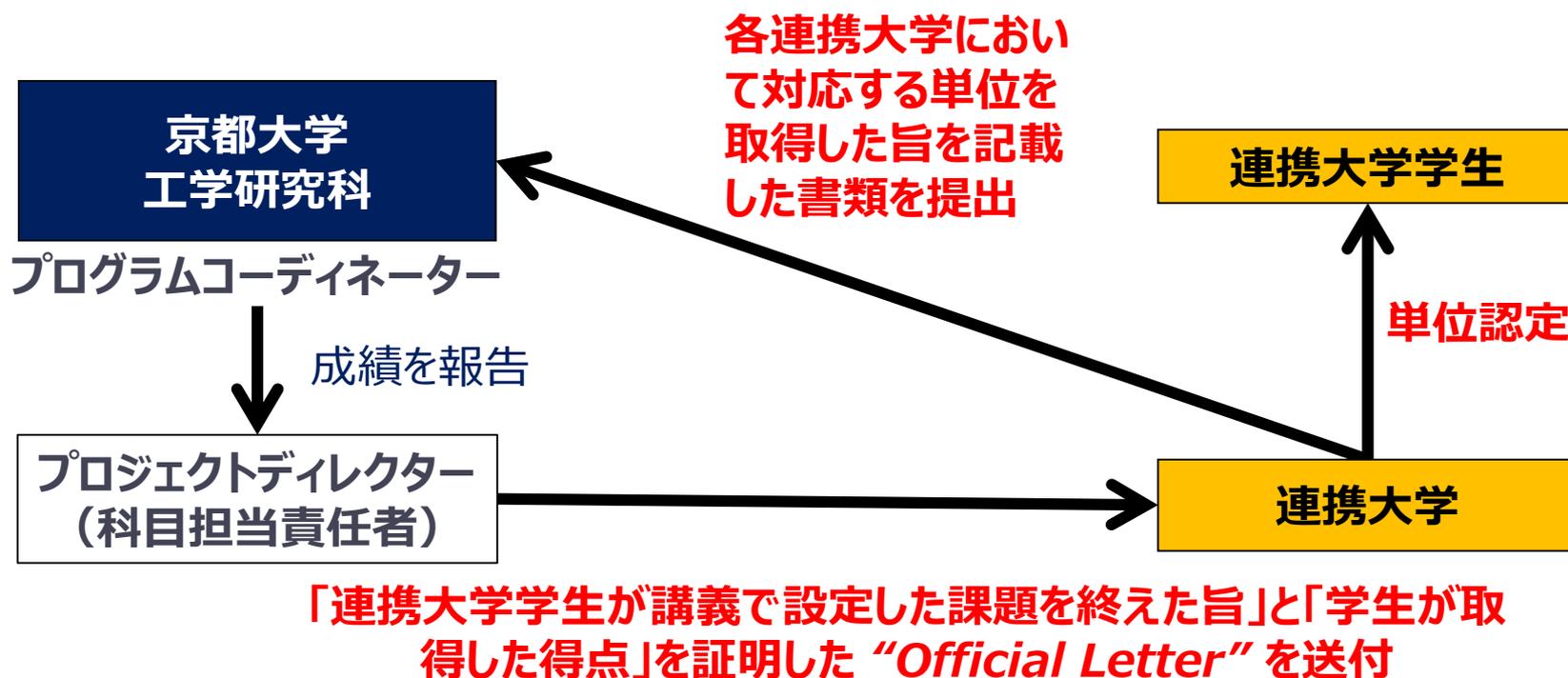


プログラムの質保証の在り方について

○京都大学／関西大学

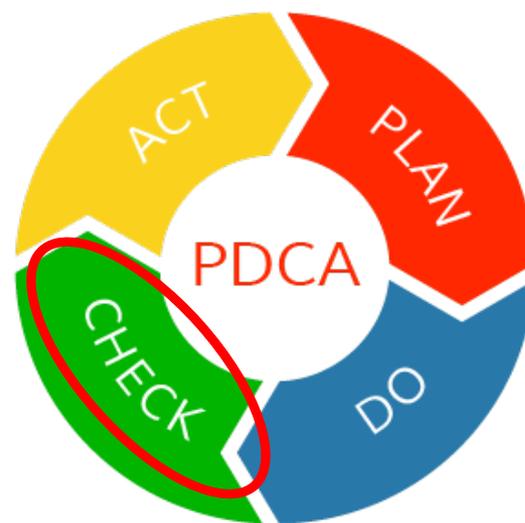
気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ
人材育成プログラム

プログラムの質保証の在り方について ： 単位認定方法



プログラムの質保証の在り方について : FD活動の実施

- 年度内に実施した活動を振り返り、次年度の活動へつなげるFDシンポジウムの実施
 - 2017年11月, 2019年3月にバンコクにて開催, 2020年1月にバンコクにて3回目を開催予定
 - 単位認定プロセスの徹底, 受講学生の反応や次年度プログラム参加学生むけプロモーションなど
- 講義アンケートの実施
 - 次年度のプログラムへ反映
 - たとえば「最終試験前に自学自習(復習)にあてる日を設定した」など.



東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア
知日人材養成プログラム

プログラムの質保証の在り方について



1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

1-1. 短期Joint Education Program

1-2. 交換による長期留学

1-3. 大学院レベルの交換



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

2. 外部評価委員会

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

1-1. 短期Joint Education Program

【派遣】

- ・ **評価** : 「短期海外留学」科目として現地での学習や交流活動、留学前後の報告を踏まえて2単位を認定
- ・ **効果測定** : 留学前後にCEFR-Jを用いた語学力の自己判定を実施。聴解や会話力の伸張など、留学の効果を確認

【受入】

- ・ **評価** : 各国別のプログラムを実施。タンDEM学習などの活動と成果を評価して参加証明書を発行。また、TUFSSショートステイ・サマープログラムに参加したラオスの学生には、修了証・成績証明書を発行
- ・ **効果測定** : 留学後アンケートを実施し、日本語の5技能やプレゼンテーション能力など、短期留学による学修効果を確認

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

1-1. 短期Joint Education Program

■ プログラムの改善

【受入】

- ・ 短期Joint Education Program（受入）終了後にアンケートを実施

⇒プログラムの点検や改善

- ・ アンケート結果を受けて、（1）宿泊施設の見直し、（2）日本文化体験の事前教育などを実施

【短期派遣・受入】

- ・ 担当教員が各協定校に赴き、プログラム内容が学生にとってより効果的なものとなるよう協議

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

1-2. 交換による長期留学

【派遣】

- ・ **評価（単位互換）**：派遣先大学において取得した単位について、本学でその内容を精査、本学の単位14単位から31単位に認定
- ・ **効果測定**：各学期末にCEFR-J判定を実施。語学力の向上を確認

【受入】

- ・ **評価（単位互換）**：本学での履修を評価して25単位～30単位を付与。帰国時に英文の成績証明書を発行。王立プノンペン大学では、在籍年次に必要な単位分として、パッケージで認定。ラオス国立大学では、本学の日本語総合、聴解、読解、文法などの科目が「日本語7」、「漢字6」として認定
- ・ **効果測定**：日本語能力試験の受験を促し、日本語運用能力の向上を確認

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

学部レベルの交換に関して

■ 学生の選抜【受入】・・・厳正な選抜

・ヤンゴン大学

短期：本学GJ0の日本語教室Level2クラスにおける成績上位者

長期：①同Level3以上のクラスの成績上位者、②担当部署による面接審査の合格者

・ラオス国立大学

短期：日本語学科1～3年の直近の学期のGPA上位者

長期：①GPA2.8以上、②日本語統一試験、③日本語面接による選抜を経て、④国際交流課による英語面接の合格者

・王立プノンペン大学

①書類審査（学業成績平均点、英語の成績）による選抜を経て、②担当部署による面接審査の合格者

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

学部レベルの交換に関して

■ 学修の効果測定【派遣】

- ・ 全学的に、入学時および2年次にTOEICを受験
留学プログラム終了後もTOEICを受験

⇒ 学生が自身の語学力を確認。大学も学生の言語力を把握し、指導に活用。
必要に応じて、本学の「グローバル人材育成プログラム (GLIP)」の受講
を提案

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

1-3. 大学院レベルの交換

【派遣】

- ・ **選抜**：Joint Education Programへの応募者について、申請内容の厳正な審査を経て派遣
- ・ **評価**：修士論文研究の評価及び指導教員の授業の一環として評価

【受入】

- ・ **選抜**：研究生として入試に備えるとともに、入試において厳密に評価。リカレントコースおよび正規課程への入学を許可

プログラムの質保証の在り方について

1. 3段階の交流プログラムにおける質保証

■ ASEAN+3について

- ・ 相互に関係教員の派遣や招へいを実施、各協定校における教育の国際化を協議
⇒ラオス国立大学および王立プノンペン大学において、単位互換が実現
- ・ ヤンゴン大学について、学年暦や成績評価基準の策定などの教育の質保証を一定程度確保。単位互換には至らない
- ・ 引き続き、ASEAN+3の浸透や国際的基準に準拠した単位互換制度の確立に向けて、協議を実施予定

プログラムの質保証の在り方について

2. 外部評価委員会

- ・ 各年度に1回、外部の有識者による、プログラム全体の点検を実施
- ・ 有識者の意見を受け、
 - a) 平成29年度よりホームビジットおよび3国交流プログラムを実施
 - b) 平成30年度より冬季プログラムを実施。短期Joint Education Program (受入)においても、3国合同のプログラムを多く実施
⇒3国の学生間の交流を促進
 - c) 短期Joint Education Program (派遣)の際に本学教員が同行、受入学生の卒業後の追跡調査を各協定校に依頼



【2018年度外部評価委員会の様子】

東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇ 自己評価・成果

・ 連携8大学と継続的な相互派遣・招聘を続けてきたことで、組織的なネットワークの構築が強化されている。各連携大学からは、専門性の高い発展的な技術交流の持続的な展開や、学科や学部の新設計に関わる協力要請などがあり、本事業を通じてASEAN諸国における芸術分野における教育制度構築に寄与している。

・ 大学間交流の枠組に止まらず、各国の国際団体、芸術文化機関、芸術家を始めとする専門家などを巻き込んだ社会実践プロジェクトを行うことで、大学の枠組みを超えた国際的かつ文化的なネットワークの構築に貢献している。

◇ 課題

- ・ プロジェクト基盤のユニットプログラムに比べ、中長期で派遣・招聘できる学生が少ない。
- ・ 補助金終了後もプロジェクトを持続できる財政的な基盤構築が必要とされている。



◇ 各採択大学における学生交流プログラムの質保証を伴った改善の取組状況

「質保証」に向けた対策と取組

- ・ 連携大学と展開力（ASEAN）事業の共同実施に係る覚書を締結。
なお、シラパコーン大学及びベトナム美術大学とは、本事業のようなプロジェクト型のプログラムの枠組みを越え、さらに発展的な交流を企図した連携協定を締結している。
- ・ 本学の持つカリキュラム構築のノウハウを連携大学に共有し、教育制度設計（新学科の設立、修士号を付与するための学位審査のノウハウの構築）への協力を目的とした、実践的な交流プログラムを展開。
- ・ 各プログラムは外部の専門家・専門機関の意見・協力を得ながら実施。また、自己評価と外部有識者による外部評価を実施し、PDCAサイクルを確立してさらなる質の向上を図っている。



◇ 各採択大学における学生交流プログラムの質保証を伴った改善の取組状況

「質保証」のための課題

- 多くの連携大学は、博士号（芸術）取得の大学院開設を目指しているものの、現状では博士号を取得している教員がほとんどいない。そのために博士課程の設置が成り立っていないとの現状がある。
- そのため、招聘・派遣プログラムを通じ、教員の博士課程進学に関する相談を受けており、連携大学の教員を学生として受け入れる制度を検討中である。



サウン・ガウ（豎琴）

新潟大学

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育
による理工系人材育成

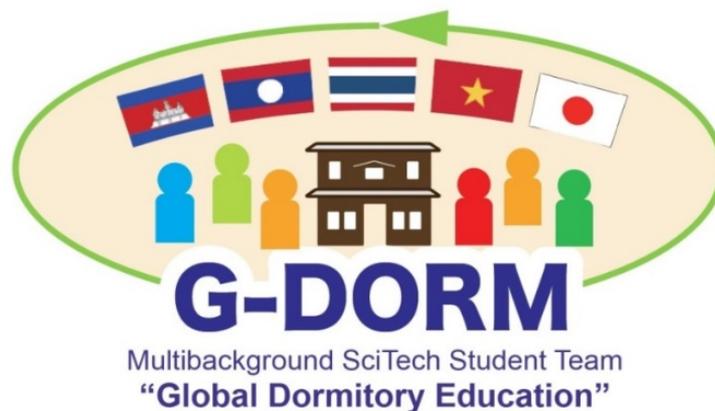


メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

学生交流プログラムの質保証 を伴った改善の取組状況について



新潟大学



王立プノンペン大学



ラオス国立大学



チュラロンコン大学



ハノイ工科大学



**高い能力の学生
に響く募集活動**

年度初めガイダンスで概要紹介(留学の有用性)・各プログラム募集説明会(学生経験談), Web・フェイスブック(フォロワー:360)・ポスター等で広報, メール連絡(留学経験者・高英語能力者等には個別連絡)

**意識が高く,高い
能力の学生の選抜**

<派遣の選抜>: 応募申請書(動機・自己PR・健康状態等), 学業成績(GPA), 英語能力(TOEIC等), 面接(目的・成長目標・準備状況・グループ活動での強み・英会話等)から, 新潟大学側で総合的に判断,
<受入の選抜>: メコン地域大学側で選考基準に基づき選抜し新潟大に報告

**渡航前学習で留学
生活対応力の向上**

志望・質問書(専門・インターシップ・健康), VISA・奨学金手続き, 留学先の国・大学情報の理解(経験者と交流等), 事前学習(英語学習課題(新潟大)・インターシップ課題理解・自己紹介資料作成), 安全管理教育(安全管理オリエンテーション等)

**派遣・受入活動の
円滑な運営**

両大学担当者連携の学習支援, モニタリング(電子メール・スカイプ面談・SIMフリースマホ貸代(現地SIM購入推奨)等), インターンシップ受入企業担当者との連携支援(電子メール・週報・スカイプ面談等), 配属研究室指導教員との連携

**根拠資料で
成績評価・
修了認定**

<国際GWインターシップ(必修)>: 複数教員による最終成果口頭発表評価, 企業によるインターシップ評価書, 各種の提出物を評価(事前学習記録, 企業でのプレゼン資料, 事前事後の自己評価書, 最終報告レポート)

工学力教育センター・国際教育部門でプログラム修了認定(要件は短期:2単位・中期:4単位・長期:8単位), 新潟大学運営委員会で確認して国外運営委員会に報告

<選択科目(主に中長期)>: 大学による学習記録報告書(科目成績含む), 指導担当教員による研究及びセミナー評価書

**各大学へ
成績記録
を報告**



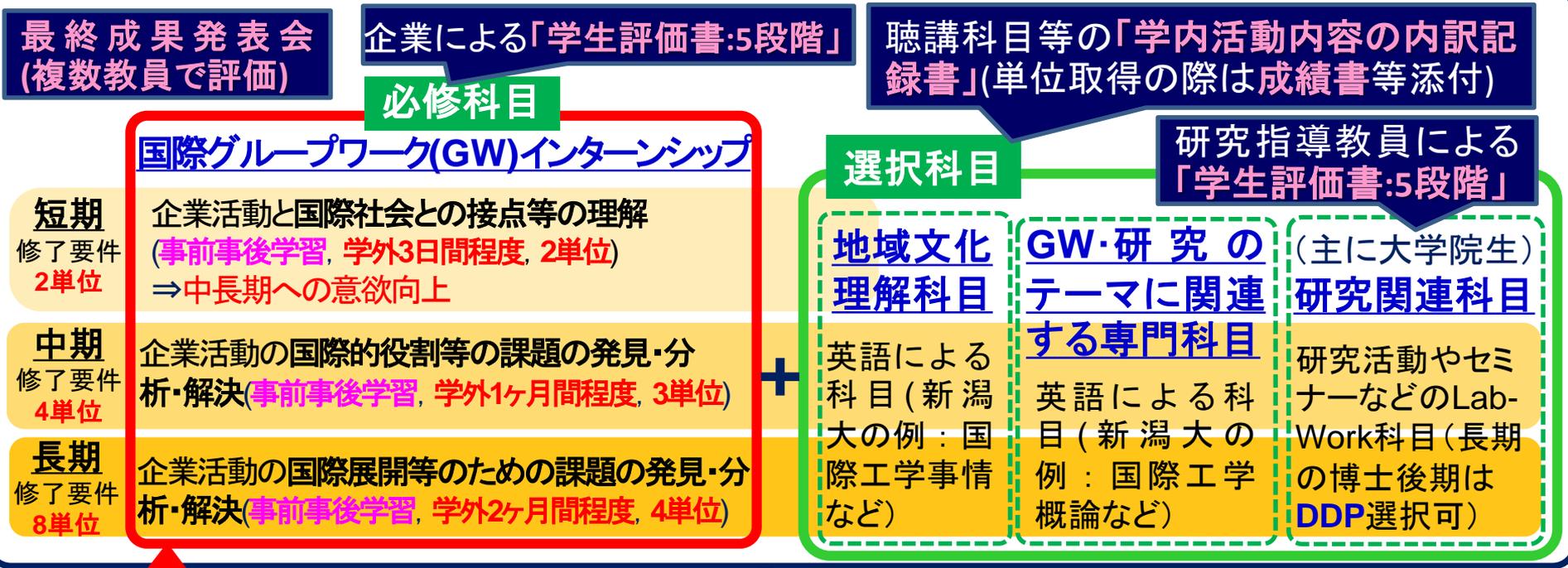
国際連携運営委員に修了認定報告

各大学委員等に成績書および評価記録などの文書資料を提出・承認



ASEAN+3学生交流のためのガイドラインに準じた成績書





- ・実習の事前・事後での英語によるGW討論(事前学習(企業による学習設計シート)・事後学習・振り返りで深い学習効果)
- ・実施期間中のモニタリング(週報提出(必要なコメント付きで企業へ転送)・スカイプ面談・メール相談・訪問など)
- ・英語による成果報告会と質疑応答
- ・報告書提出(参加動機・活動紹介・学びと成長・将来のキャリア・在学生へのメッセージ)
- ・学外者へアウトリーチ活動(対外的講演会や学会で発表, 国際100人カネットワーク(学外技術者)交流など)

国際グループワークインターンシップ科目の質保証のための改善活動の事例

H30年度の受入企業との振返りアンケート調査と振返り意見交換会
(学生と企業の双方にとって良いインターンシップのために！)



<企業側から指摘された主な成功点>

事業改善・生産効率の改善につながった、新たな気づきや刺激、社員の人材育成や能力向上の活性化、企業の認知度向上、人材採用戦略上の有用知見

<企業側から指摘された主な課題>

学生情報の充実、大学や学生との相互理解、受入準備体制の改善、マナー

R元年度の主な改善事項

- ★事前提供の学生情報の充実:「Personal Statement (志望動機書):氏名・所属、**大学での勉強・研究内容**、**日系企業のGWインターンシップで学びたい事**など」と「Interview Sheet (質問票):**健康状態 (アレルギー・処方薬等)**・**食物制限**・**喫煙**・**その他の把握すべき事項**など」
- ★事前学習事項に**基本的ビジネスマナー講習** (挨拶,時間厳守,報告・連絡・相談,整理整頓等)
- ★インターンシップ中の学生の**週報**を教員コメントも適宜で添えて次週に企業に送付。

企業・大学・学生間の情報共有活動の継続的深化
企業と大学の振返り意見交換会の継続

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎
人材」育成プログラム

質保証を伴った改善の取組み

- 大学の世界展開力強化事業
- (ASEAN対象プログラム)
- 令和元年 採択大学連絡会



質保証への取組み

- 連携大学との連絡を密にとる
- プログラムの内容やレベルの調整
- プログラム終了後のアンケート

質保証への取組み

- 連携大学との連絡を密にとる
 - ・ 時期の調整・プログラム内容の改善
- プログラムの内容やレベルの調整
 - ・ 発展途上国においては学生の学力を確認し、講義やプログラム全体の内容のレベル調整を行う
- プログラム終了後のアンケート
 - ・ 留学生・引率教員・日本人学生へそれぞれアンケートを配布し、時間配分やテーマ、訪問先企業などについて意見をもらう
 - ・ 来年度のプログラムへ活かす

質保証への取組み

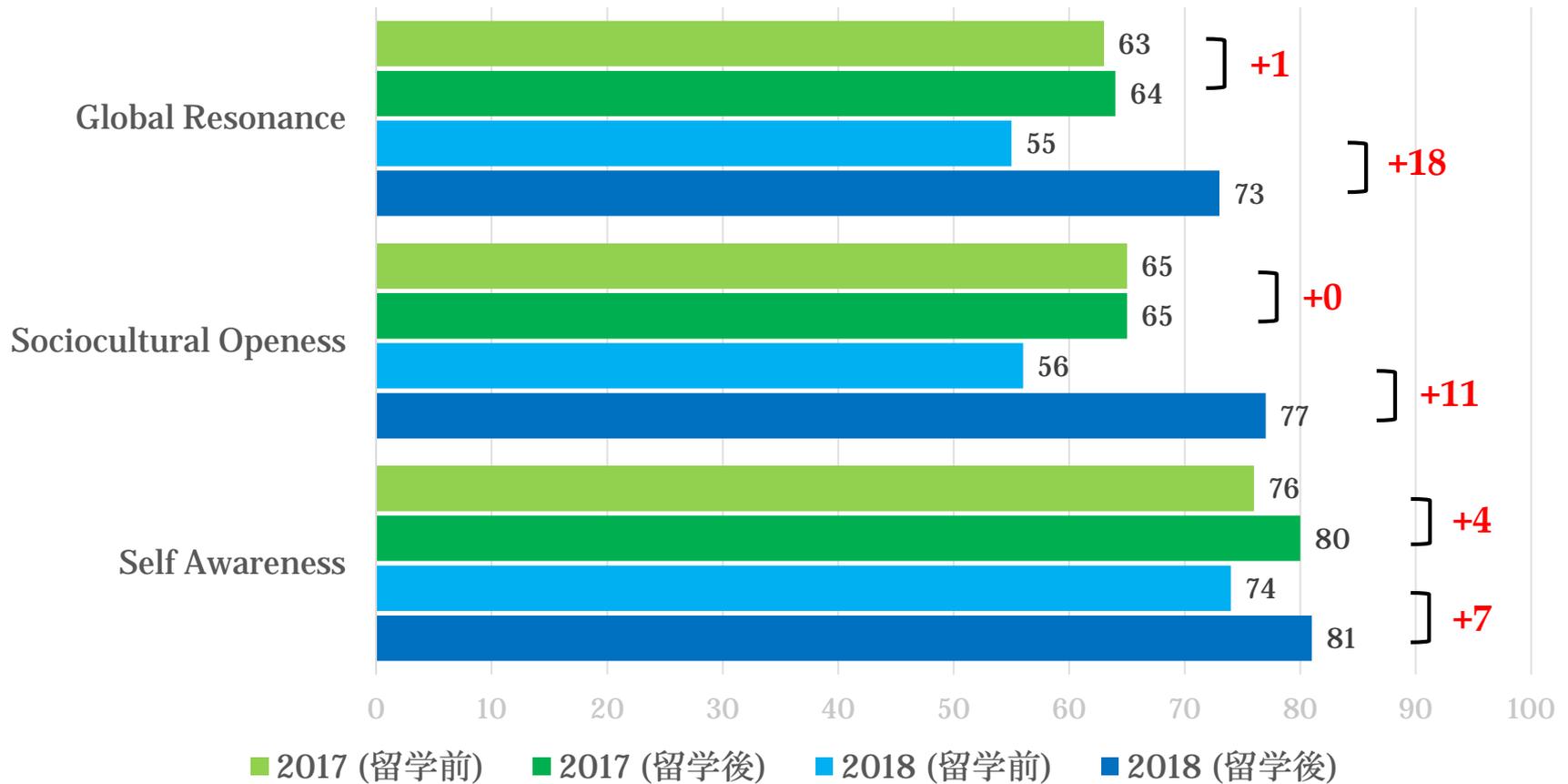
- **大学内：**
 - 教員・職員向けの危機管理シミュレーション訓練
 - 受入・派遣中に緊急対応が必要な場合に備える
 - 受入学生・派遣学生がより安心できる体制作り
 - 課題：学内の連絡網の見直し
 - 休祝日・夜間の場合の対応を再確認

○広島大学／広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する
研究力と社会起業力の融合人材育成

◆BEVI*に基づく留学効果の客観的測定

派遣学生のBEVIデータ（2017および2018年度）



*BEVIの詳細については以下の文献を参照されたい。

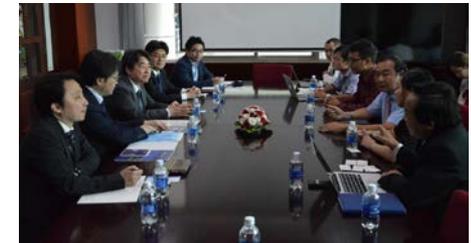
- 永井敦 (2018). 「BEVIによるショート・ビジット型留学プログラムの効果分析: 「グローバル人材」は育成できるのか?」 『広島大学留学生センター紀要』 第22号, pp. 38-52.
- 西谷元 (2017). 「留学効果の客観的測定・プログラムの質保証 -The Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI-j)」 『広島大学高等教育研究開発センター高等教育研究叢書137』, pp. 45-70.

慶應義塾大学

アジア発グローバル法曹人材養成プログラム

プログラムの質保証の在り方について

- 法務研究科の自己点検
- 策定プログラム（特に短期プログラム）の事前・事後のレビュー
- 学生による参加報告書の提出
 - プログラム参加者から将来のプログラム実施に向け、
様々なフィードバック
- 文部科学省の追跡調査への参加
- 日本学生支援機構（JASSO）の追跡調査への参加
- エクスターンシップ先への訪問、ヒアリング
- デュアル・ディグリープログラムの実施に向けた協議を行うために、相手大学との情報交換、プログラム発展に向けた課題を議論するための打ち合わせ。
ワークショップやセミナーの継続的な実施。
- 世界展開力事業終了後の資金確保（現在は世界展開力事業補助金や奨学金）
対応：「アジアにおける法学教育連携推進資金」を設立。
- ハノイ法科大学（ベトナム）に、「慶應グローバル法研究所ハノイ法科大学オフィス」を設置。



協定先との打ち合わせ（2019年5月・ホーチミン）



（2018年12月・ハノイ）

明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

3 プログラムの質保証の在り方について

- 「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期開催し、目標設定や成果の確認、各事業取組の進捗を管理
- 各取組部局のプログラムや共創FDワークショップ・CLMV学生会議について、アカデミックフェスにてプロジェクト・レビューを実施
- 各取組部局は、海外連携大学との交流プログラムに係る協議において、交流内容（学修内容）の質保証の考え方等についての意見交換を継続して実施

3 プログラムの質保証の在り方について

各取組部局の実施例：

✓ **政治経済学部**

タマサート大学との双方向ダブルディグリーに関する協議の中で、質保証の在り方についての協議を継続

✓ **情報コミュニケーション学部**

各短期プログラム実施後、外部にも開かれた場で報告会を実施。異なるプログラム間で経験の共有をはかり、社会人など外部からのフィードバックを得る機会を設けた

✓ **理工学研究科**

夏期の派遣プログラム期間中にJABEE（※1）建築系学士修士認定に関する質保証の考え方、カリキュラムの体系化等に関する意見交換を実施

※1：一般社団法人日本技術者教育認定機構の略称。理工系、農学系の高等教育機関に属し、認定を申請した技術者教育プログラムを認定の対象としている。

3 プログラムの質保証の在り方について

・明治大学アカデミックフェス(2019年11月開催予定)

「Fly to the World (世界展開力報告書)」セッションにおいて、各部局の取り組み・プログラムを広報すると同時に、参加学生による活動報告を行い、プロジェクト・レビューを実施

→2017年度より実施し、今年で3回目。セッションの聴衆として広く教員・学生が参加。レビューでのフィードバックを今後の活動に連携・発展させる機会となっている

